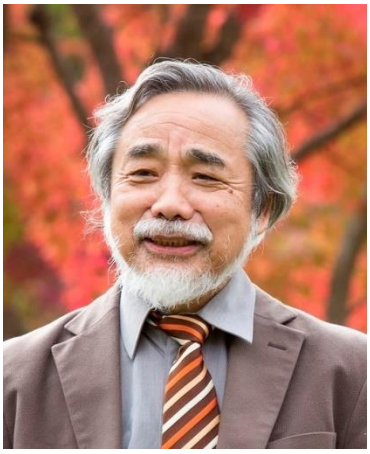
■　未踏アドバンスト事業　■
統括プロジェクトマネージャーからのメッセージ



竹内郁雄 統括 PM

2000 年からミレニアム（千年紀）事業として始まった未踏ソフトウェア創造事業は、2008 年に未踏 IT 人材発掘・育成事業へと名前を変えました。その結果、IT に関する元気で優れた才能を発掘して、それを伸ばすという本来の意図が明確になりました。名が体を表すようになったわけです。その後、未踏事業から育った人材の価値が産業界や学界に大いに認められ、2017 年に、年齢無制限、プロジェクト当りの予算も大きい未踏アドバンスト事業（以下、未踏アドバンストと略称します）がスタートしました。かつて、未踏本体と呼ばれた年齢無制限の事業が復活した形に見えますが、逞しい IT 人材を輩出し、日本の IT を元気にする本格的な人材育成事業として、仕組みも新たになって生まれ変わったというほうが正しいでしょう。

もちろん、25 歳未満の優れた才能を発掘し、成長真っ盛りの時期にそれを大いに伸ばそうという未踏 IT 人材発掘・育成事業（かつての未踏ユースの発展形ですが、以下、未踏 IT と略称します）は、ますます元気に続行中です。そこでは、多少無鉄砲で荒削りでも、IT 人材としての伸びとポテンシャルを最も重視します。

一方、未踏アドバンストは名前が示す通り、日本の IT 産業と IT 社会基盤の発展・強化につながるような、より成熟した IT 人材を育成することを目的としています。25 歳未満という年齢制限はありません。未踏 IT よりも高い事業性や社会実装・国際的デファクトスタンダードの実現可能性を重視します。未踏 IT を修了して、未踏アドバンストに挑戦するというのが、思い描かれた一つのコースではありましたが、いきなり未踏アドバンストに応募することも大歓迎です。実際、これまで半数以上の採択プロ

ジェクトが未踏 IT 出身者以外でした。高い事業性のあるアイデアは社会人の経験を積まないと、出てきにくいのかもしれません。

現在の日本の社会・経済環境では、何か高い事業性のあるアイデアを思いついても、それの実装・実現にはすぐに直接的支援を受けることがまだまだ難しいようです。未踏アドバンストは、そのようなアイデアを温め、孵化させ、巣立ちさせることをお手伝いします。PM（プロジェクトマネージャー）のほか、未踏 IT にはない BA（ビジネスアドバイザー）による指導・助言が加わっていることがその端的な顕れです。

ただ、一般的な意味でのインキュベーションと異なるのは、「未踏」という冠がついていることからお分かりのように、事業や社会実装のベースに、未踏的・先進的な技術の裏付けを必要としていることです。PM はそこを重視します。また、時間と手間をかけて、PM と BA がプロジェクトに伴走します。ここがビジネスコンテストの類と一線を画しているところです。

未踏アドバンストへの応募を考えている方は、こういった未踏アドバンストの「こころ」をしっかり理解していただくようにお願いします。

2000 年に始まった未踏事業ですが、未踏ブランドと言えるものが樹立するには 10 年近くかかりました。発展的復活をした未踏アドバンストですが、その「こころ」がしっかりと浸透してくるまでにはやはりある程度の時間がかかりました。最近の未踏アドバンストの採択者（未踏 IT のクリエータとは異なり、イノベータと呼びます）の成果や成長を見ると、たしかにこの「こころ」が浸透してきたと感じます。

なお、未踏 IT にはスーパークリエータという称号認定がありますが、未踏アドバンストにはスーパーイノベータという称号はありません。それは、未踏アドバンストの採択者の評価は PM や BA ではなく、社会が判定するものだと考えるからです。未踏アドバンストのイノベータの自己責任はより重いと考えてください。

まだまだ書くべきことがたくさんありますが、未踏 IT に対する統括 PM のちょっと熱いメッセージ（https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/it/2024/doe3um00000030uv-att/it2024_koubo_takeuchi.pdf）とかなり重複しています。上記の未踏アドバンストの「こころ」を念頭に置きながら、それも併せて読んでいただければと思います。